

夏

の島旅を満喫しよう

若松瀬戸へ向かった。出迎えてくれたのは、GOTO真光クルーズの大瀬良澄男さん・利恵さんご夫妻。お二人によれば、西海国立公園の一部である若松瀬戸は、五島列島の中でも複雑なりアス式海岸が織りなす静かな内海を楽しめる特別なエリアだそう。

青空が広がる午前十一時、クルーズ船はゆっくりと若松港ターミナルを出航した。船にはリラックス度満点のチェアが置かれてあり、リゾート気分を掻き立てる。

最初に向かったのはマグロの養殖場。潮の流れが速い若松瀬戸ではブリやヒラマサなど、養殖が盛んに行われている。養殖場では回遊しているマグロにちょうどエサを与えていた。聞けば、二キロの稚魚が四年の歳月をかけて最大百六十キロにまで成長するという。それもそのはず、マグロは私たちが食べているものより品質が良いのではないかと思われるほどの大きなサバを大量に与えられていた。高い養殖技術もさることながら、

知られざる海上の日常が見られるのは貴重な体験だ。

養殖場を後にした船は風を受けて軽快に進み、静かな入江にたどり着いた。無人島の間をゆっくりと進む船。そこに広がるエメラルドグリーンの海は吸い込まれそうほど美しく、神秘的だ。

お二人がクルーズ船を始めたのは二〇二四年の一月。まだスタートして間もないが、船を操縦する澄男さんとガイド役の利恵さんの息はぴったり。お二人は島の人でさえあまり見ることのない自然をぜひ観光客に見てほしいと、コースを決めるにあたって何度も周遊したと話す。

「このエメラルドグリーンの海だけは、必ずコースに入りたいと思っていました。日によって、また時間帯によっても表情を変える海を楽しんでいただきたいですね」と澄男さん。無人島には美しい手つかずの森が広がっている。利恵さんが海の下を指さして教えてくれる。「ほら、あちらにはテーブル珊瑚が見えますよ」。

潮風に吹かれて海上からしか見ることのできない絶景を堪能。

# 若松瀬戸クルージング

初夏は新緑が美しく、冬は水の透明度が増します。クルージングは1年中楽しめますよ。

五島列島  
新上五島町  
Shikamigoto Town

マグロの養殖場

若松瀬戸にかかる全長522メートルの若松大橋。クルージングではこの下を通過!



# 静

まり返った内海を堪能し、船は外海へと向かう。波が高くなったかと思うと、島の様相も一気に荒々しくなった。

見えてきたのは「ハリノメンド」と呼ばれる浸食洞。この地方の方言で穴のことを「メンド」と言い、針の穴を意味する。長い年月をかけて波の浸食によってできた浸食洞は、幼子イエスを抱いた聖母マリアのシルエットに重ねられている。自然が創り出したものにさへも信仰を見出した信徒たちに、ひととき思いを馳せる。利恵さんは

「冬の夕暮れ時には夕陽が差し込みます。オレンジ色に染まるマリア様もきれいですよ」と教えてくれた。

船はいよいよクライマックスともいべき「クリシタン洞窟」へ。ここは明治時代、迫害から逃れようと付近のカトリック信徒たちが三カ月もの間、隠れ住んだ場所。クリシタン洞窟は若松島の突端に位置するが、気象条件がよければ、上陸が可能だ。この日は運良く、降り立つことができた。大きな岩だらけの洞窟は足場が悪く、どう

やってここで生活したのかと胸が締め付けられる。奥に進むと、

利恵さんが壁を指さし「この場所を祈りを捧げていたのかもしれない」と言う。壁には額を掲げていたような跡がうかがえた。暗い洞窟に身を潜めた十人ほどの信徒たちは、食事を炊くために付けた火の煙がきつかけで、沖を通る漁船に見つかり、捕らえられてしまった。彼らを偲ん



GOTO真光クルーズの大瀬良さんご夫妻。お2人の人柄にも魅了された。

で、一九六七年、白亜の十字架とキリスト像が建てられた。今でも毎年秋には、ミサが捧げられているという。

約二時間のクルージングは本当にあつという間。波穏やかな内海と、ダイナミックな外海、そしてこの土地ならではのクリシタンの歴史が展開し、若松瀬戸の魅力が展開している。内航船に乗り、日本中をめぐるってきた経歴を持つ澄男さん

は「全国を見てまわったからこそ、この島の魅力が分かりました。クルージングを始めたのも、地元のために出来ることをしたかったからなんです」と話す。若松島で生まれ育った利恵さんは「何もないのがこの島の魅力。でも、その素晴らしさに気付くには時間がかかりました。若い時は、この自然が当たり前だと思っていましたから。魚と野菜の物々交換が今でも普通に行われているこの島が私は好きですね」と目を細めた。

五島列島  
新上五島町  
Shikanojima  
Town

## 海の風景と クリシタンの歴史。 島の魅力を凝縮した 爽快クルージング

海からしか見ることのできない聖母子像「ハリノメンド」

「クリシタン洞窟」の中で見られた、額を掲げられたと思われる跡

小高い丘の上に立つ桐教会。船からは、揺れる水面に映る教会の姿を見ることができる。

